

□ 九重の城闕天将に曙ならんとし

百万の人家戸局さず

(王禹偁)

次号予告「泰山北斗道行世 赤箭靈芝之意自春」

九重城闕天將不局曙  
百萬人家戸局さず  
（王禹偁）

（楷書）

吉田成美先生書

（この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする）

半折作品は各課目ごとに横／縦／に一枚ずつたたんで提出ください。

九重城闕天將不局曙  
百萬人家戸局さず

山本飛雲先生書

（隸書）

&lt;行書&gt;

清原大龍先生書

九重城  
百人衆  
人室戸不肩  
天海將署

龍  
ム  
翻

△ 海このえの宮城は今や夜明けんとするが、都下百万の人家は太平なれば戸もしめていぬ。

舟尾圭碩先生書

すまへまくら  
まくらひのまくら

せむりかくへ  
せむりかくへ

□ み可きもり 烈し農多<sup>の</sup>くひの よる盤も盈<sup>は</sup>  
みかきもり 衛士のたく火の 夜はもえ 昼は消えつゝ 物をこそ思へ

△百人一首四十九▽

条幅随意(臨書) (この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする)

井之上 南 岳先生臨



(正岡子規のうた)

ひと  
一うねの  
青菜の花の  
あをな  
咲き満つる  
さきみ  
小庭の空に  
さには

さ  
観の  
と観の  
とびま  
舞ふ春日  
とびま

一  
うねの青菜の花の咲き満つ  
小庭の空に観のと観のとびま  
舞ふ春日

△孔宙碑

条幅随意 (この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいづれか一点のみとする)

吉田成堂先生書

△孔宙碑

貴速朽之反眞慕寧儉之遺則窓夕不華

貴速朽之反眞慕寧儉之遺則窓夕不華

△手本(課題例)にとらわれず意欲的な作品を期待します。▽

半折作品は各課目ごとに横1/8に一枚ずつたたんで提出ください。

# 条幅随意参考手本（半折½縦のみ）—3月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)



□ 上田  
五千石の句

水  
甕の  
水にさざなみ

初蛙

何(題材)をどんな布置(文字の配置)で書こうか。この時間は楽しみでもあるが、苦しいときもある。今月は初蛙(はじめて鳴く蛙、またはその声)にひかれ、水甕に変化を求めてみました。

井之上 南岳先生書

# 条幅隨意参考手本（半折½縦のみ）—3月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)



□  
蘆錐

早春に芽吹くあしの若芽のこと。その先が錐（きり）のように尖っているところからの称。季節の中で、生命力の息吹のようなものを意識しながら書いてみました。

小畠秋聲先生書

半紙規定参考手本 —3月末日締切—

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)



□ 泥融けて燕子飛ぶ (唐・杜甫)  
凍つていた泥がとけ、その泥で巣を作ろうとつばめは飛び回る。

次号予告「歸心日悠哉」

吉田成美先生書

半紙規定参考手本 —3月末日締切—

(この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする)



次号予告「歸心日悠哉」

吉田成美先生書

半紙隨意参考手本 —3月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)



□ 乗風破浪 風に乗り浪を破る (「宋書」宗慤伝)  
大きな風に乗って、万里の波を破り越えて進みたい。

次号予告 「経  
徳」

渡邊大嶽先生書

# 半紙隨意參考手本 —3月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

□ み可きもり 炙しの多くひ農の よる盤も盈え 日流者きえつ、ものをこそおもへ

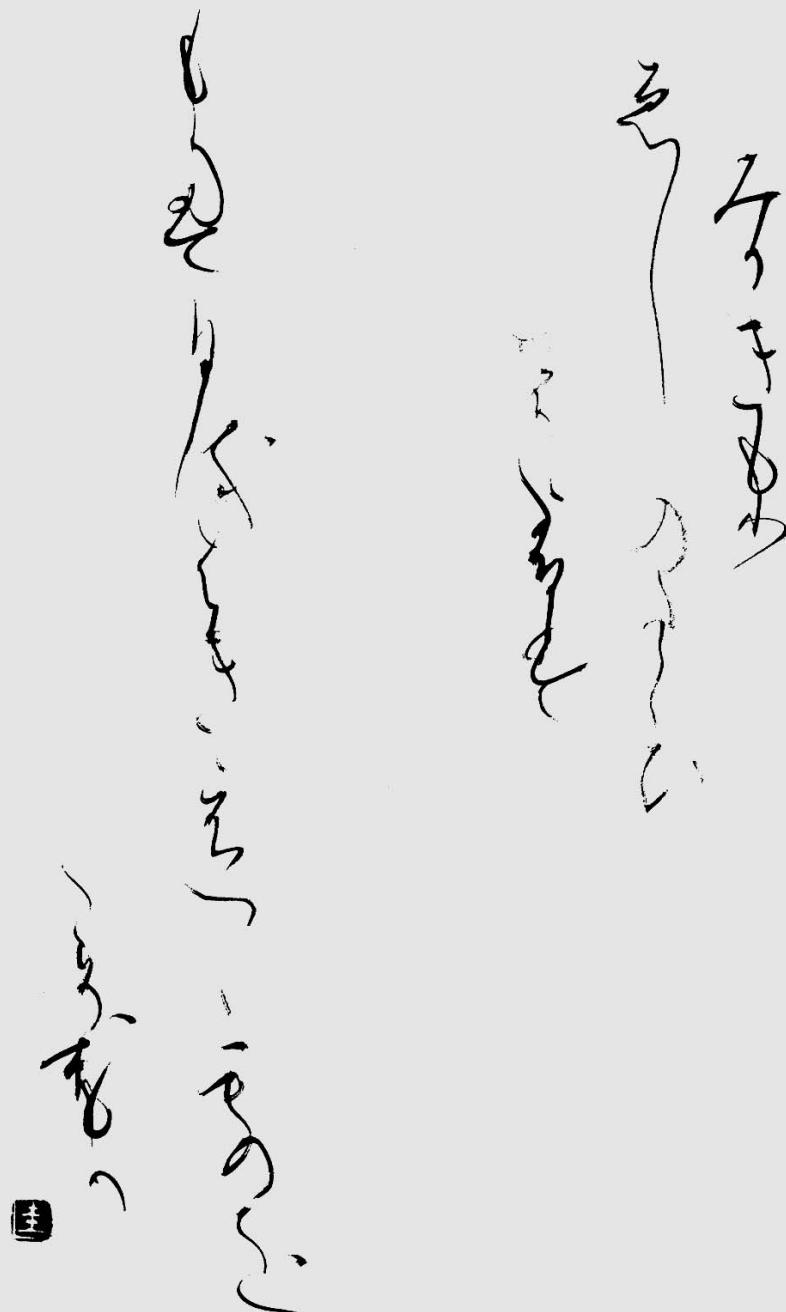
△ 仮名

みかきもり

衛士のたく火の 夜はもえ

昼は消えつゝ

物をこそ思へ



舟 尾 圭 碩 先 生 書

# 半紙隨意参考手本 ——3月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。  
(モノ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください)

△詩文書△ 遙かとは 花野の風の 湧くところ △片山由美子の句△



西谷芝蘭先生書

半紙隨意(臨書)参考手本 —3月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする)

△臨書▽ 点画がやや細めで、線質は強く、結体・用筆も学びたい。



廣瀬蘇水先生臨

半 紙 隨 意 參 考 手 本 —3月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△実用書▽

授業 教室 職員室 体育館 校外学習 給食当番 クラブ活動 吹奏楽部の響き

長い廊下を走って 窓から身を乗り出してガラス拭きをした

姓  
号

窓から身を乗り出でてガラス拭きをした	吹奏楽部の響き	校外学習	授業
長い廊下を走って	給食当番	教 室	職員室
	クラブ活動		体育館

大 坪 桂 子 先 生 書

半 紙 隨 意 參 考 手 本 —3月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする)

△手紙文△

先日は遠くまで足をお運びいただき有難うございました 初めての書道展で心弾む時間を  
有難うございました 初めての書道  
展で心弾む時間を過ぎせたとの  
お便りに大変嬉しく思いました  
また他の書展へもお誘いしますね

先日は遠くまで足をお運びいただき有難うございました 初めての書道展で心弾む時間を  
過ぎせたとのお便りに大変嬉しく思いました また他の書展へもお誘いしますね

兵頭白慧先生書

# 一般硬筆部参考手本 <B> —3月末日締切—

(この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目A・Bのいずれか一点のみとする)

△暮らしに役立つ書△

## 書 誌

梅の蕾がふくらむ春がやってきました。  
昨年は一緒に夜桜を楽しむことができ  
とても良、思い出します。

母のように優しく温かく散りゆく花の、  
よそに共感するものがあります。

あなたから戴いたやくし色のネックチーフを  
手連に愛用させていただきます。

お達、できる日をたまごみにして、  
どうでも身じ自愛くださいませ。

由里子

野のある便箋に書いてみよう。  
△26cm×18cm▽ 紙質は自由。

•日本の文化は、繊細で素晴らしい、建築、陶芸など、数多くの芸術作品が残されています。日本人はもっと誇りを持つべきで、書は、誇れる分野ではないでしょうか。毛筆をペンなどで書くのも、また、たのしいものです。

※本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

樋口凌雲先生書

(この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。)



小学 4 年

小学 3 年

小学 2 年

ようねん・小学 1 年



中学 2・3 年

中学 1 年

小学 6 年

小学 5 年

秋 永 春 霞 先 生 書

△ 条幅  $\frac{1}{4}$  || 四尺画仙紙半折  $\frac{1}{4}$  : 68 cm × 17.5 cm √

学生部規定手本

—3月末日締切—

□ ほ先の回きにと三本の線の長さのちがいに気をつけながら、書きましょう。



小学二年

□ “むすび”は、筆だけをまわさずに、腕全体で書きましょう。“ハネ”もていねいに。



次号予告「けいこ」

ようねん・小学一年

次号予告「た  
い」

坂元紫香先生書

□ “偏”と“旁”、点画の接する点に気をつけ、広がりと強さの中にも明るさのある作品にしよう。



小学四年

□ 字形をやや縦長に保ち、二画目の転折、六角目の点は力強く、立体感のある作品にしよう。



次号予告「麦」

小学三年

次号予告「十」

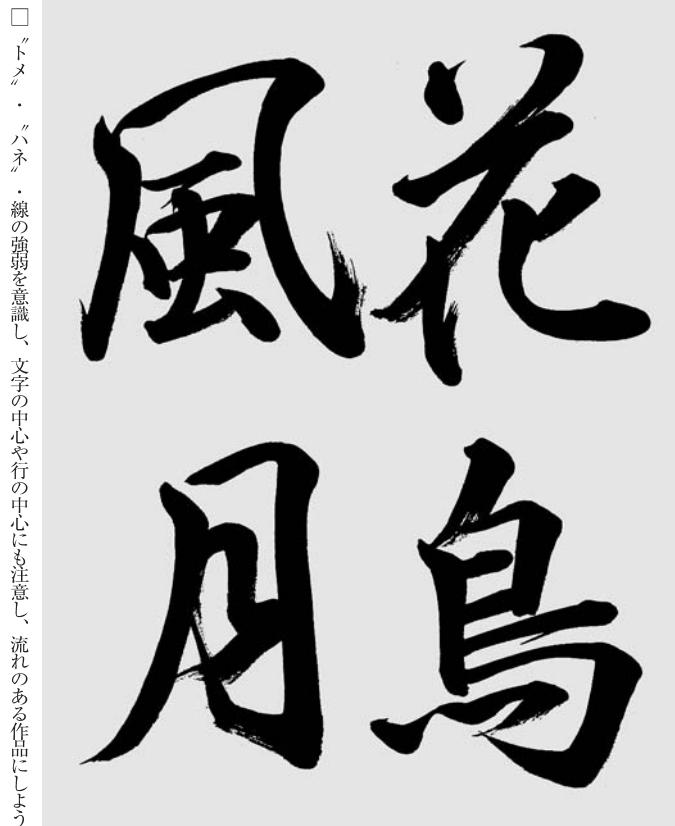
吉田成美先生書



□ それぞれの文字の横画の間かくに注意して。「現」は「へん」と「つくり」のバランスに気をつけて。

小学六年

次号予告「友情」



□ “トメ”・“ハネ”・線の強弱を意識し、文字の中心や行の中心にも注意し、流れのある作品にしよう。

中学一・三年

次号予告「雷鳴」(行書)



# 硬筆部規定手本

—3月末日締切—

小学二年

段級	
氏名	
まつすぐおろし上と下の よこせんにつけける	二年生のこと。
とある門間のねる	そう、楽しかった
ななめにはらう 自泊宿準樂	年間。書いてのこ
	あつというまの一

ようねん・小学一年

段級	
氏名	
はらう赤牛牛生	らいには、大きさだ。
はねる赤牛牛生	ときには、やぎく
上の二本のよせんよりながい	やんは、生まれた
(あか)	しまうまの赤ち

坂元紫香先生書

小学四年

段級	
氏名	
立ててよこかくにつける 暗暗	白いもようを付けました。
つながるにうつどめる 冷冷	子の赤いセーターの上に、
重重雪	風も冷たくなり、雪は、女の
	空ほどんよりと暗くなり、

小学三年

段級	
氏名	
間をあける 豆太(まめた)	つて、いるでつかい木だ。
上のよこかくは長い 戸戸屋	だ。小屋のすぐ前に立
前前	な、豆太がつけた名前
	モチモチの木つてのは

坂元紫香先生書

# 硬筆部規定手本

—3月末日締切—

小学六年

小学五年

学校や家の周りには、自然がたくさんありました。放課後、いねかりの終わった田んぼや空き地で、木の板をホームベースにして、暗くなるまで野球をやっていました。

なんともかんとも美しいむすめが、ふぶきの中に、ほつづら立つておつた。聞けば、旅の者が、道に迷つて、雪の中をようやくここまで来たと言う。

門 門 門 門 聞

止 手 於 於 旅 旅 半 平 迷

段級  
氏名

門 門 門 門 聞

止 手 於 於 旅 旅 半 平 迷

段級  
氏名

古代の中国人は、「春」という漢字を通して、季節の移り変わりの中で太陽の光が増し、万物の生命力が旺盛に燃え始めようとする時期を、植物が芽生えるやまで表したといふ。

中 学

旺 盛 盱 盱 盱 盡 成 盛 盛 一 二 三 三 苗 芽

段級  
氏名

中国の科挙は官吏を登用する試験で、難関で鳴る一方、榮達への道とされた。しかし、カンニングや替玉などある手この手が横行し、清の時代には、発覚すれば数年の流刑になつたという。

言 言 詞 詞 課 課  
口 日 甲 里 野 野  
丁 王 球 球 球

(「」の課題は A・B・いずれか一点のみとする)

※142%拡大で原寸大になります。

小畠秋聲先生書

一 般 (A)

小畠秋聲先生書